

令和5年度 第6号 小学校低学年版

みらい ちきゅう じぶん かんが じっせん
未来の地球のために、自分でできることを考え、実践しよう ～カーボンハーフ～
せい せいりょく でん
さい生かのうエネルギー「水力はつ電」

ねん
年

くみ
組

なまえ
名前

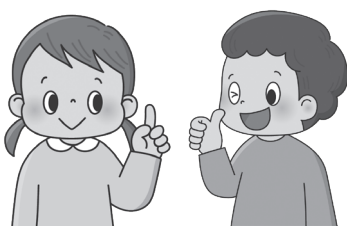
①ダムのしゃしんを見て、思ったことを書きましょう。



②わたしたちの生活で、水はどんなことにつかわれているのか、考えましょう。



③水を大切に使うために、わたしたちにできることを考えましょう。



カーボンハーフスタイル推進資料 指導資料

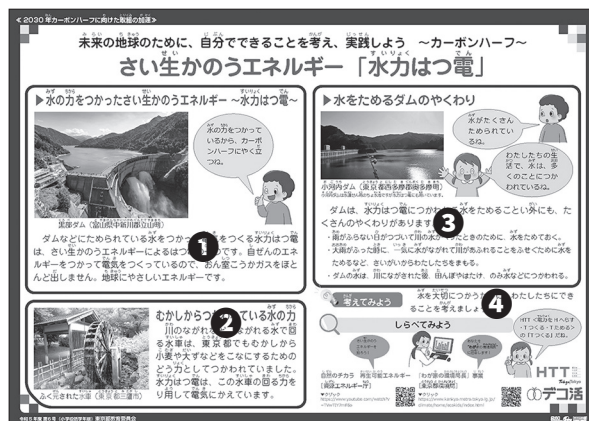
カーボンハーフスタイル推進資料は、温室効果ガスの排出を実質ゼロにするという世界共通のゴールに向けて、自然環境や地域、地球規模の諸課題等の環境保全に関する具体的な内容を示し、児童・生徒に、環境に対する豊かな感受性や探究心、環境に関する思考力や判断力、環境に働きかける実践力など、持続可能な社会を構築していくための資質・能力の育成を図ることを目的に作成した教材です。

本指導資料では、カーボンハーフスタイル推進資料の授業での活用例を紹介します。

カーボンハーフスタイル推進資料の活用例

未来の地球のために、自分でできることを考え、実践しよう ～カーボンハーフ～ 再生可能エネルギー「水力発電」

①表題



②ねらい

- ・水力発電は、再生可能エネルギーによる発電の一つであることを理解する。
- ・水力発電は、温室効果ガスをほとんど出さないことを知る。
- ・水の力を利用した水車は、古くから使われていたことを知る。
- ・ダムについて、発電以外の役割があることを知る。

③本教材で扱う 再生可能エネルギーの一つである水力発電が果たす役割、ダムの役割、生活の中の主な内容

④主な活動内容

主な活動内容	指導の要点	◆推進資料との関連 ■関連リンク
○掲示用教材①を見て、ダムの写真を見て思ったことを発表する。		◆掲示用教材① ◆ワークシート①
○水力発電について知る。	○水力は再生可能エネルギーによる発電の一つであること、水力発電は、温室効果ガスをほとんど出さないことを説明する。	◆水力発電の二酸化炭素排出量は建設・補修時に発生するものが全てで、運転中は二酸化炭素を排出しません（中学校・高等学校版に掲載）。
○掲示用教材②を見て、水の力は昔から使われていることを知る。	○昔から水車などで水の力を利用して、小麦や大豆を挽いていたことを説明する。	◆掲示用教材②
○掲示用教材③を見て、ダムの役割を知る。	○ダムの役割を説明する。	◆掲示用教材③ ◆ワークシート②
○私たちの生活で、水はどんなことに使われているのか考え、発表する。		
○掲示用教材④を見て、水を大切に使うために私たちにできることを考え、話し合う。	○水を大切に使うために、自分たちにできることを話し合わせる。	◆掲示用教材④ ◆ワークシート③ ■資源エネルギー庁 自然のチカラ 再生可能エネルギー ■環境局 「わが家の環境局長」事業 ■東京都教育庁 カーボンハーフスタイルチャレンジ

